



#### 4-2. 発表時に言及されていない箇所の色彩

色彩が言及されていない箇所について、言及された色彩に類似する場合と、類似せず独立した色彩をもつ場合に分類し、各箇所の色彩の特徴を検討する。

言及された色彩に類似する箇所は**女中室**、**書斎**、**玄関**と**食堂の天井**である。壁、天井が淡鼠色に、建具が鼠色に相当するため、居間等と同様の色彩が施されたと考えられる。しかし、女中室に関して、小川が創建時は壁面が素地だったことを指摘しており<sup>注11)</sup>、創建時はテクススが塗装されず、後に塗装された可能性がある。

独立した色彩をしている箇所は**便所**、**檜フローリング**、**地下階への階段**である。それぞれの特徴的な色彩について検討する。**便所**は仕上材、色彩共に類似する室がない。窓框の色彩は黄緑系の5GY8.5/1や10GY8/2であり、他の室に用いられた鼠色には相当しない。**檜フローリング**は1930年代の住宅作品で一般的に使われており、色彩を説明する必要性が低かったと考えられる。ギャラリーの床は創建時から家具が置かれ、当時の色彩を保つ箇所があり、その色彩は7.5YR6/3である。**地下階への階段**の色彩は、青緑系の5BG5/2で、現在まで塗装が更新されていない。このように、独立した色彩をしている箇所には、色彩を説明する必要性が低かった材の他に、便所の窓框のように特徴的な緑系の色彩が採用されている。

#### 5. 内装仕上材の色彩と空間の関係

創建時の色彩をアイソメ図に反映し(図3)、色彩と空間の関係を検討する。各室の仕上材及び色彩と平面的特徴から、土浦邸の室は**A**居間を始めとした諸室、**A'**寝室、**B**女中室、**C**水回りの諸室に分類できる。

**A**居間を始めとした諸室(玄関、居間、食堂、ギャラリー、書斎)は、壁に淡鼠色、家具と建具に鼠色が配され、全体をモノトーン調に仕上げている。この空間は、壁、天井による面と、建具や階段等による線の構成を、濃淡で区別することで、単調さを回避しメリハリのある色調を実現している。加えて、これらの室は南面採光が可能であり、無彩色でも明るい空間が実現できたと考えられる。また、淡鼠色で統一された壁に対して天井は色彩が言及されず、特に居間の天井は色彩が特定できない。寝室のように壁と天井の色彩が異なる可能性があるが、**A**は一体的な空間として設計されていることから、玄関や食堂のように壁と天井は同様の色彩表現だと考えられる。

**A'**寝室は、壁に緑系、天井に黄系の色彩が採用されている。独自の色調だが、創建時はカーテンや家具に黄色

と鼠色の組合せが多用されたように、寝室には**A**と組合せるように、淡鼠色と調和し空間の連続性を妨げない色彩が施されている。また、居間と比較して寝室は日中も暗いため、明度の高い色彩が適していると考えられる。

**B**女中室は、創建時は壁と天井のテクス等が素地で用いられている。女中室は執務空間として独立した室であり、他の室とは区別して仕上が施されたと考えられる。

**C**水回りの諸室(浴室、台所、便所)は、腰壁や床に白色タイルを用いる他、実験的に当時の新素材を採用した箇所があり<sup>注12)</sup>、木部は明度の高い色彩で仕上げている。そのため、仕上材の連続や色彩の統一性よりも、仕上材の機能性を重視したと考えられる。また、採光が北面しかできないことから、白色やアイボリー色等の明度の高い色彩によって暗い印象を回避したと考えられる。

**A**の色彩表現は土浦の理想とする近代的な生活空間の表現が結実している一方、**C**の色彩表現は試行的な仕上の結果であり、対比的な配慮がなされている。このように、土浦は室の用途や空間の印象、環境や仕上材等の要素を考慮して、各室の色彩表現を決定している。

#### 6. 結

土浦邸のこすり出し調査から創建時の色彩値を特定し、各色彩の特徴と空間の関係が明らかになった。土浦は独自の仕上方法と色彩表現を確立し、土浦邸で実践している。創建時の土浦邸では、仕上材と色彩の組合せから4つの空間のまとまりが存在する。その中でも居間等は淡鼠色と鼠色による、シンプルでありながらメリハリのある色彩表現をしており、生活の大半を過ごす場として土浦の緻密な色彩意匠が集約された空間となっている。

注釈  
 注1) 文献1 pp12-22 参照 注2) 文献1 pp16 参照 注3) 文献1 pp20, 文献2 参照  
 注4) 現況の内装仕上材の多くは何度も塗り替えられている。創建時の色彩は、一部の名称は雑誌等に記載されているが、マンセル値等の色彩値による情報は見当たらない。  
 注5) 山越邦彦は「(前略)、塗料を塗るのやむなきに至った。その為にテクスの音響効果は全然なくなり、しかも目地が不規則に出来たという失敗をした。」(文献3参照)と述べ、無塗装の方が機能性において優れていることを説明している。  
 注6) 蔵田周忠はテクスを無塗装で用いることについて「和紙など薄色の塗壁と変わらない柔らかい感じで素木の木部とよく調和した」(文献4参照)と述べている。  
 注7) 家具と部屋の装飾(1932年12月4日)という講演にて、土浦は「新しい時代の住宅は寧ろ装飾をしない装飾、装飾なしの装飾と云うことが、一つのモットーじゃないか、(中略)淡い色の方が此頃好まれるのであります、(中略)濃い壁の色で、部屋の中の人を嚇かすよりも、そこに客人が入ってくる場合に、其客人なり、其主人なりが、最も良い装飾になるように目立たない装飾をする、目立たない色を塗るという方が、本当の新しい装飾法じゃないかと思うのであります。」(文献5 pp1-7参照)と述べている。  
 注8) 時層色環のうち、白色または上塗りと同系色の薄い色を下地と判断している。  
 注9) 文献6 参照 注10) 創建時の状態が掲載された文献7、文献8の内容とする。  
 注11) 土浦亀城建築事務所勤務し、当時土浦邸を訪れた小川信子氏の発言より。  
 注12) 文献7 pp44 参照 参考文献

1) 田中厚子: 土浦亀城と白い家(鹿島出版会, 2014, 5)  
 2) 田中厚子: 土浦亀城の戦前の住宅の素材と色彩について 日本建築学会大会学術講演梗概集 2008, 9  
 3) 山越邦彦: 新建築 1933年10月号(新建築社, 1933, 10)  
 4) 蔵田周忠: 国際建築 1936年6月号(美術出版社, 1936, 6)  
 5) 土浦亀城: 建築雑誌 1933年4月号 pp1-7(日本建築学会, 1934, 4)  
 6) 長沼徹: 土浦亀城邸の増改築における仕上材の変遷 日本建築学会大会学術講演梗概集 2020, 9  
 7) 土浦亀城: 新建築 1935年3月号 pp41-50(新建築社, 1935, 3)  
 8) 国際建築協会編: 国際建築住宅図集 1936年号 pp1-8(国際建築協会 1936)

表3 調査から得られた創建時の仕上色彩表

室	床	巾木	壁	天井	階段、柱	窓	扉(木製、鋼製)	家具	鋼製部材	仕上材及び色彩と平面的特徴による分類
玄関	モザイクタイル素地 5Y9.2/1	クリーム色	西面(1), テクス 水性塗料 10YR7/0.5	テクス 水性塗料 N8.7		框(東面) 水性塗料 5YR6/2	扉2(玄関側) 水性塗料 N5	造り付けベンチ 水性塗料 N4.5		A
	檜フローリング 5YR5/3		西面 水性塗料 N7.5	西面(2), テクス 水性塗料 N8.5	淡鼠色に相当		窓枠(東面) 水性塗料 5B5/1	玄関扉(鋼製) 塗料 5B6/0.5		
ギャラリー	檜フローリング 10R5/6		階段4 鐵込板 水性塗料 5PB8/0.5	モルタル バルボイド仕上 10YR9/1		框(東面) 水性塗料 N3.5			温水管 塗料 5GY6.5/0.5	A
	檜フローリング 7.5YR6/3		階段部, ペニヤ 水性塗料 5GY8/2			窓枠兼柱 (x5-y2) 水性塗料 N5				
居間	檜フローリング 10YR7/2	東面 水性塗料 N8.5	東面, テクス 水性塗料 N8.5	モルタル バルボイド仕上 10YR9/1	階段3 鐵込板 水性塗料 N5.5		格子扉 水性塗料 5PB5/1	ソファ(木部) 水性塗料 5B6/1		A
			南面, テクス 水性塗料 N8.2			格子扉(鋼製) 塗料 N3		手すり 塗料 N1.5		
食堂	檜フローリング 10YR7/2	西面(家具) 水性塗料 5B5/1	東面(1), テクス 水性塗料 N7.7	テクス 水性塗料 N7.5		框(東面) 水性塗料 N5	扉3(食堂側) 水性塗料 N4.5	北面棚(上面) ラッカー塗装 N1	黒色	A
		東面 水性塗料 N8.5	東面(2), テクス 水性塗料 N7.2	淡鼠色に相当		窓枠(東面) 水性塗料 5PB4/1		北面棚(正面) 水性塗料 N7	格子 塗料 10YR3/0.5	
寝室	檜フローリング 10YR7/3	西面 水性塗料 N5.5	西面(1), テクス 水性塗料 5G8/1	テクス 水性塗料 5Y9/2	柱(x10-y3) 水性塗料 5PB5/1	框(東面) 水性塗料 5GY6.5/0.5		入口側棚(正面) 水性塗料 N6.5	北側棚(内) 塗料 N6	A'
			西面(2), テクス 水性塗料 5G7/2		敷居 水性塗料 5PB5/0.5	窓枠兼柱(x14-y3) 水性塗料 N5.5		腰壁, ペニヤ 水性塗料 5GY6.5/0.5		
書斎	檜フローリング 5YR7/4	南面 水性塗料 N8.7	西面, テクス 水性塗料 N8.7	テクス 水性塗料 5PB8/0.5	柱(x5-y3) 水性塗料 N5	框(南面) 水性塗料 5PB5/1	扉枠 水性塗料 N5	凡例 計測箇所名 仕上 マンセル値 評価 色彩の評価内容 ×: 最古の仕上だが、創建時の色彩ではない可能性がある △: 最古の仕上だが、言及された表現に相当しない なし: 最古の仕上であり、創建時の色彩である		A
			淡鼠色に相当		柱(x6-y3) 水性塗料 N5	鼠色に相当	扉5(書斎側) 水性塗料 5GY4/2			
女中室	檜フローリング 10YR7/4	西面 水性塗料 N8.7	東面, テクス 水性塗料 2.5Y7/0.5	テクス 水性塗料 2.5Y7.5/0.5	柱(x4-y5) 水性塗料 N8.2	框(南面) 水性塗料 5GY6/1	扉4(女中室側) 水性塗料 5PB4/1			B
			素地の可能性あり			窓枠兼柱(x4-y3) 水性塗料 N4				
台所	ミネライト塗床 不明(赤褐色)	赤褐色	西面, テクス 水性塗料 1.25Y7.5/1	テクス 水性塗料 10YR7/1		框(北面) 水性塗料 5GY8.5/1	扉4(台所側) 水性塗料 7.5Y9/2	東面棚 正面 水性塗料 7.5YR8/2	カラー版	C
			白色タイル 素地 2.5Y9/0.5			扉3(台所側) 水性塗料 7.5YR8/2	南面棚 正面 水性塗料 5YR8/2			
浴室	白色タイル 素地 N9.5	巾木なし 白色	白色タイル 素地 5Y9/0.5	プラトン 素地 2.5Y8.7/1.5	階段2 鐵込板 水性塗料 5BG5/2		扉1(室内側) 水性塗料 5GY6/1	西面棚 戸枠 水性塗料 2.5Y8/0.5		C
			モルタル 7.5YR8/0.5		階段2 側面 水性塗料 5Y8.5/1		扉1(廊下側) 水性塗料 N6.5			
便所	仕上材不明 色彩不明	巾木なし	南面, 木 水性塗料 5Y7/1	テクス 水性塗料 N7.5		框(北面) 水性塗料 10GY8/2	扉6(廊下側) 水性塗料 5GY5/1			

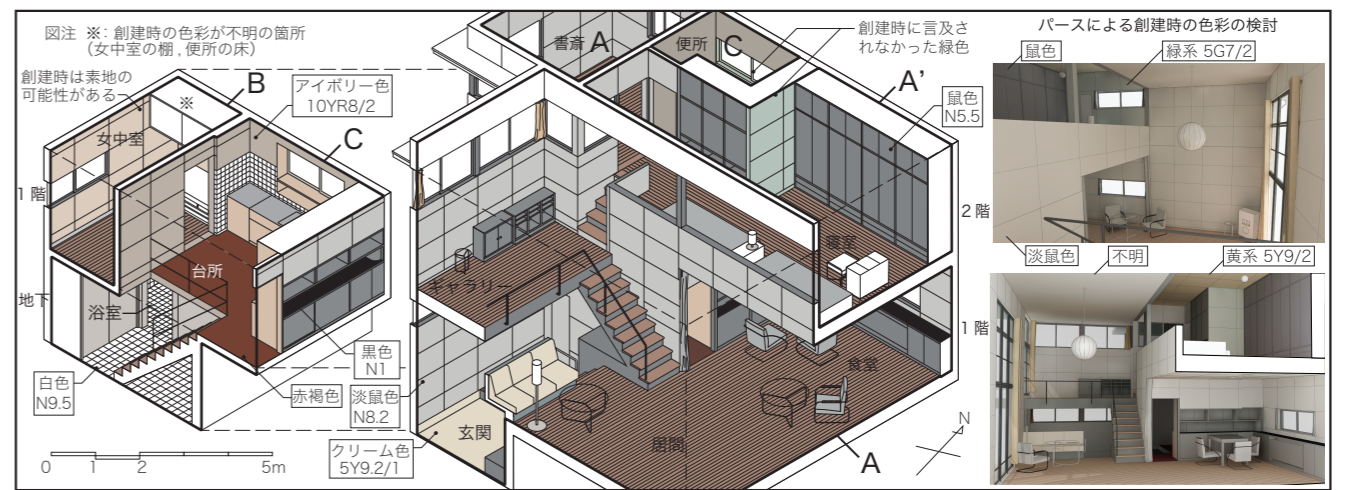


図3 創建時の色彩を反映した分解アイソメ図